令和４年度　学校経営計画

杉並区立和田中学校
校長　　村山　忠久

教育目標

「自立貢献」

基本理念

〇和田中学校の全生徒・職員は、自分自身の成長を追求し続ける
〇和田中学校の全生徒・教職員は、個としての自立を実現する
〇和田中学校の全生徒・職員は人のつながり、学習のつながり、情報のつながりを大切にする
〇和田中学校の全職員の判断・行動基準は「子供にとってどうなのか」

目指す生徒像

自ら、気づき、考え、行動する（表現する）人
自立し、他者や社会に貢献する人、未来を拓く人

〈目標達成のための基本方針〉

１　主体的・対話的で深い学び」の推進

「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況に対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」を学校教育の柱とする。

①　「学びの構造転換」をすべての教育活動を通じて推進する。（3-②）
・「授業の約束」を徹底し生徒にとって分かりやすい説明を行う。
・「学びの主体」である生徒が「学ぶ意義」を実感できる授業を実現する。
・生徒の興味・関心、好奇心を生かし課題設定させ、「主体的に学習に取り組む態度」を育む。
・考える時間を確保し、対話、発表等の意見の共有を通して思考を深める。
・近隣小学校との、学びの連続性を意識し、小中一貫教育の充実を図る。
・課題を解決するために、思いや考えをもとにして創造する活動の過程を重視する。
・すべての教育活動を通して生徒を適切に「見取り」、多様な活動に対し「価値付け」を行う。（2-⑤）

②　１人１台専用タブレット端末の活用を日常化する。

２　.心の教育・特別支援教育の推進

ちがいを認め合い、自分らしく生きるために、生徒に寄り添い、多様性について考えることを柱とする。

①「特別の教科　道徳」を要として、思いやり等の道徳性を育む。
②　他者を認め受け止める姿勢を育むとともに、多様なものの見方・考え方を育む。
③　「誰一人取り残さない」しあわせな未来のためにインクルーシブ教育を推進し、SDGｓについて理解を深め、行動する姿勢を育む。
④　いのちの教育月間では、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の指導の充実を図る。
⑤　生徒の様々な活動に対して適切に評価し、自己肯定感を高める。（１-①④）

⑥　教育相談週間を年２回実施し、生徒の話を傾聴する。（4-①）

⑦　校内委員会において、学びの教室等に関しての情報共有し組織的に対応する。

⑧　いじめ対策委員会等おいて、いじめ防止対策等、情報共有し組織的に対応する。

３　.多様な教育実践の推進

生徒・教職員が共に成長し続け、世の中に貢献し未来を拓く人材となるよう、多様な教育実践を進める。

①　各種教育活動を意図的、計画的に企画し、組織的かつ機能的に遂行する。また、全職員は報告・連絡・相談を迅速に行う。

②　「主体的・対話的で深い学び」を推進するために、「学びの構造転換」の校内研修を実施し、授業改善を行う。

③　思考力・判断力・表現力が求められる発表の場を意識的に設け、生徒に自信をもたせ自己肯定感を高める。

④　「自尊感情調査」「hyper-QU」「特定課題調査」「情報モラル実態調査」等の各種調査を活用し、本校生徒に必要な教育方策を整備し実施していく。

⑤　様々な分野の社会人と連携・協力したり、教育実践を行うことで生徒の視野を広げ、予測不能な社会への対応力や社会貢献の基盤を育成する。（4-③）

⑥　総合的な学習の時間「よのなか科」では、「キャリア教育」「協働・協力」「情報」リテラシー」を扱い、「SDGs」を基盤に据え、取組を行う。

⑦　学級の係活動、生徒会活動等を通して他者への貢献することの基盤を育てる。

⑧　宿泊行事、運動会、学習発表会(合唱を含む)等を通して、主体性や表現力等を育むとともに、学級、学年、学校としての一体感、所属意識を高める。

４　「生徒（家庭）・学校・地域」連携の推進

「地域社会」との「双方向」な連携・協力体制を発展させ「生徒（家庭）・学校・地域」三者による「Happy Triangle」を構築するために「学校運営協議会」「地域本部」との連携を深める。

①　カウンセリングマインドに基づき生徒一人ひとりに寄り添い適切な対応を行う。生徒が教員を指名する教育面談週間を年２回実施する。（２－⑥）

②　家庭との意思疎通を進んで図り、そのニーズを把握し、学校として期待される使命を果たす。

③　世の中に対し、生徒・教職員が進んで関心をもつとともに、教育活動に地域人材や多様な機関等を積極的に活用するなど、教育活動の質を向上させる。職場体験学習や地域防災訓練等、地域とのつながりを大切にする。

④　近隣小学校と小中一貫教育を推進する（１－①)。相互の学校運営協議会の交流を推進し、理解を深める。

⑤　補充的な学習の充実を図るために、生徒に寄り添った、家庭学習ノート「WADASTA」 の活用、放課後の補充指導等を行う。地域本部運営の「放課後自習ルーム」、「ドテラ」と連携を図る。

⑥　地域貢献活動として、地域でのボランティア活動等に生徒の参加を促す。